

授業科目 治療学演習 4 (物理療法学・運動負荷学)

【担当教員名】 石黒圭応・椿淳裕	対象学年	3	対象学科	理学療法学科
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	60 (内15)

【<概要>又は<一般目標：G I O>】
 ①各種機器の取り扱いを理解し、その重要性和適応を習得する。その際に、起こりうるリスクを選択でき、それに対して対処できる知識・技能を修得することを目的とする。

【<学習目標>又は<行動目標：S B O>】
 1. 物理療法機器のリスクを説明することができ、対処できる。
 2. 機器の管理とプログラムの修正を行うことができる。
 3. 運動負荷に対するリスクを説明でき、対処できる。
 4. 運動負荷の実施とリスク管理、治療方針の修正を行うことができる。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	ガス分析運動負荷実験 (自転車エルゴ)	1	石黒圭応・椿淳裕 (実習)
2	ガス分析運動負荷実験 (トレッドミル)	2	石黒圭応・椿淳裕 (実習)
3	1 2 誘導心電図および心電図モニターの実際	2・3	石黒圭応・椿淳裕 (実習)
4	物理療法機器の実習・(その1 温熱療法)	2	石黒圭応 (実習)
5	物理療法機器の実習・(その2 水治療法・牽引療法)	2・3	石黒圭応 (実習)
6	物理療法機器の実習・(その3 電気療法)	1-4	石黒圭応 (実習)
7	まとめ・実習に関する試験	1-4	石黒圭応・椿淳裕 (試験)

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	理学療法士のための運動処方マニュアル, 奈良 勲・大成浄志・川口浩太郎, 文光堂			
参考書	物理療法学: 奈良 勲 : 医学書院			
【評価方法】	【履修上の留意点】			
期末試験, 出席日数, 授業貢献度, などを通して総合的に判断する。	授業に対して受身にならず積極的に参加し、質問してほしい。			